

# 総合診療部を経験して

## 総合診療部を経験して

歯科矯正学分野 大学院1年 中田 樹里



初めまして、歯科矯正学分野大学院1年の中田樹里です。私は2013年3月に本学を卒業後、1年間総合診療部にて研修をさせていただきました。ここでは、私がこの1年間を通して経験

し学んだことをお伝えしたいと思います。

なぜ本学総合診療部を研修先として選択したかということ、一般歯科診療について学びたかったということが1番の理由でした。限られた研修期間内でじっくり研修をしたかったので、慣れ親しんだ環境であることも選択を行う上で重要視しました。そして、この研修を通して自分の抱く歯科医師像をもっと具体的なものにしたいと考えておりました。

実際に総合診療部で研修を行い、本当に良い選択をしたと感じておりますが、その中でも特徴的であったことをいくつか紹介したいと思います。まず1つ目としては、自分が責任者として患者さんを担当させていただけたことです。初診来院された患者さんの医療面接、口腔内診査から始まり、治療方針および計画の立案、治療経過と予後の一連の流れを実際に経験することができました。学生時代に各分野の知識として学んでいたものがそれぞれ繋がり、断片的だったものを統合して考えられるようになりました。どのような症例においても、患者さんの現症を把握し、適切な治療方針および計画を立案することの重要性と難しさを痛感しました。

また、最善の治療を提供するためには、患者さ

んと良好な信頼関係を築き、ご本人のご協力が必要不可欠です。総合診療部では、毎回診療時に十分な時間を取り、治療内容について患者さんに説明を行うようにしています。説明をするためには、術者が患者さんの状態を十分に理解している必要がありますので、自然と様々なことについて学習を行うこととなります。来院回数が増えるにつれ、患者さんとの信頼関係が築かれ、治療終了時に食べられるようになって喜ばれる患者さんの姿は今でも脳裏に浮かびます。

そしてこの研修期間は、まさに「人に恵まれた」1年間でした。総合診療部には各分野のスペシャリストである指導医の先生が在籍されているので、多様な観点から指導をいただきました。どのような基本的な知識でも、嫌な顔一つせずに教えてくださいました。また、ただ分からないことを教えるだけでなく、症例について問題提示し、私たち研修医に考える機会を多く与えてくださいました。もう1つの恵まれた「人」は、いわゆる「社会人1年目」をともにした同期の研修医のみなさんでした。「できたこと」「できなかったこと」をみんなで共有し、切磋琢磨しあうことができました。診療がうまくいかず落ち込んだ時にも、みんなで励まし合った1年間でした。研修で出会った同期の先生方とは今後もお互いに助け合って歯科医師人生を歩んでいくことと思います。

思い返すとあっという間でしたが、たくさんの成長があった1年間であったと感じます。少しずつではありますが、自分の目指す歯科医師像を具体的にイメージできるようになりましたし、改めて医療従事者として患者さんと携われることに喜びを感じます。総合診療部での1年間は私の歯科医師人生の基盤であり、いつまでもここで感じた「初心」を忘れずに精進して参りたいと思います。

## 臨床研修を終えて

歯学教育研究開発学分野 中 村 太  
大学院1年

2014年3月をもって、無事に1年間の臨床研修を終了し、歯科医師としての新たな一歩を踏み出すことができました。これもひとえに指導医の先生方のご指導のたまものと感謝しております。

臨床研修が実際に始まる前は、新しい環境と新しい仲間に関心を持っていましたが、やはり心の中には大きな不安がありました。しかし、実際に臨床研修が始まってみると、良い環境と仲間恵まれ、とても有意義で楽しいものとなりました。

この1年間は、診療の技術だけではなく、診療に対する姿勢や患者さんへの対応、配慮等、様々な事を学びました。『診療参加・実践型の臨床研修を通じて生涯学習につながる問題解決・自己評価の姿勢を涵養する』という基本方針の下、実際に自分が主治医となり、治療を進めていくという事の難しさと達成感は今までにないものでした。診療が進むにつれ、徐々に患者さんとのラポールが形成されていくのを感じ取れたり、以前なかなか上手く行かなかった診療がスムーズに進められるようになったりと、毎日の診療が自分の糧になっていく歯科総合診療部での臨床研修はとても刺激的で、今までの人生の中で最も短い1年間だったと感じています。

臨床研修が始まる際、藤井教授が、「『信頼される歯科医師』になれるよう努力しなさい」とおっしゃられたのを今でも覚えています。患者さんに信頼される歯科医師、同僚に信頼される歯科医師、色々な解釈があると思います。まだ技術的に拙い自分に対して、「先生のごことは信用しているから、先生がいいと思う治療をして下さい」と

おっしゃって下さる患者さんもたくさんいらっしゃいました。とても有難い事ですが、自分自身、まだ自分を信頼できないところがあります。1年間の臨床研修で得られた大きな経験をベースに、これからの歯科医師としての人生で得られる様々な経験を積み重ねていき、自分が自信をもって信頼できる歯科医師になれるよう、これからも努力をしていきたいと思っております。

この1年間、一緒に苦楽を共にした同僚と離れ離れになってしまったのは悲しいことですが、それぞれの選んだ道が、これからの長い歯科医師としての人生の中で、再び交わることもあるでしょう。そうなった時に、胸を張って自分の歩いてきた道を紹介できるように、自分が選んだこの道を進んで行きたいと思っております。

私自身は、この春から講座が開かれた、歯学教育研究開発学分野の大学院に進学することとなりました。何もかも初めてで、研究も手探りの状態ですが、だからこそ、やりがいのある分野であると感じています。歯科総合診療部のスタッフとして、今まで指導して下さった先生方と一緒に働かせていただいておりますが、ポートフォリオや研修の準備など、指導医の先生方の見えない苦勞を知り、改めて感謝をする日々です。

歯科医師臨床研修制度が必修化され8年が経ちますが、新潟大学医師学総合病院歯科総合病院という、全国的にも恵まれた環境にて臨床研修を行うことができたのは本当に幸運な事でした。人生は長く、これからまたいろいろな事があるでしょうが、歯科総合診療部で過ごしたこの1年間は間違いなく特別なものでした。これからの研修医にとっても、そうであるように、これからは微力ながら自分も臨床研修に関わっていきたくと思っております。